

# 第41回 うつのみやこども賞だより

令和6(2024)年度 8回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『真実の口』

いとう みく／著 坂内 拓／装画 (講談社)



～読んだ本の感想より～

- 子供を助けるためにとった行動が、裏腹な結果につながることもあると知って、ゾッとしたし、「助ける」のは本当に難しいのだと知りました。
- 本当に正しいことはどうなのか考えさせられる本だと思った。
- 誰かを頼らなかった周東たちの行動は、ほめられたものじゃないけど、最終的にアリスが幸せになれてよかった。
- 主人公たちがアリスを交番につれていき感謝状をもらう。そのシーンに違和感は感じなかったけれど、そこからどんどん変わっていく展開にハラハラ、共感しながら読みすすめられた。
- 律希たちが警察官の人たちに意見を言うシーンがとても良かったです。
- 後半に、大人の力をかりてたすけることができて良かったです。

令和7年1月 5日

『誰も知らないのら猫クロの小さな一生』

なりゆき わかこ／著 酒井 以／絵 (Gakken)

- なかなか少ない猫からの目線の本がおもしろかったです。
- クロだけでなく、他のねこのことも書いてあって、おもしろかった。特に6章が1番よかったです。
- 1つ1つの物語を読んでいくうちに、1つの物語につながっていくところがおもしろかったです。
- 同じ時間に起きた7つの物語がどこかで重なっていくような感じがしておもしろかったです。

『グリーンデイズ』

高田 由紀子／作 酒井 以／絵 (文研出版)

- 「新くん」に勉強を教わってきた主人公が、友達とのあそびを断ってまで勉強熱心だということが良く伝わった。
- いなか(佐渡島)で生まれ育った芽衣は東京に住む親せきの家の通っていた「聖央大学」にみりょうされ、芽衣の生活が大きくかわっていくところがおもしろかったです。
- 勉強をがんばろうと思った芽衣が6年生になったとき、新がひっこしてきて学校でのトラブルがあったけど、最後にはみんなで仲良くなってよかった。

『ブルーラインから、はるか』

林 けんじろう／作 坂内 拓／絵 (講談社)

- コタと風馬が何十キロもある道のりを自転車で走っているのがすごいと思っし、2人がコタのアレルギーのときや、風馬のぜんそくのときなどに助け合ったりしているところがいいと思いました。
- 「ぜんそく」のしょうじょうが出た時はひやひやして大丈夫かなと思っただけれど、そのしょうじょうで半分だけれど行けたから、すごいなと思っし、感動した。